

## 野手の祇園

匠 瑤 探 訪

183

今年も新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止や神事のみを夏祭りが多いようです。疫病が流行し、それを鎮めるため京都・八坂神社で始められたのが祇園祭の起りとされています。

市内では、八重垣神社（中央地区）や東谷・八坂神社（平和地区）の祇園祭が知られています。かつて野手（野田地区）にも「東西2カ所」の祇園祭が行われていたとする資料が筆者に提供されました。

東は野手大根畑里の八坂神社、西は野手西宿里の八雲神社の祇園で、互いに競い合うように、にぎやかだったと語り継がれていたといえます。

記録は失われてしまったものの、八坂神社は旧暦6月15日に祭りが行われたとされ、明治時代の初めに野手村の大津屋半兵衛が伊勢参りの帰りに津島神社にお参りし御神体の分霊を持ち帰り、八坂神社に合祀したといわれています。

津島神社は、愛知県津

島市にあり、同市のホームページによると祇園信仰で知られる牛頭天王社の総本社とされ「津島参らにゃ片参り」といわれ、江戸時代から伊勢参りの折りに同神社を参拝する習わしがあった、と紹介されています。

明治25年（1892）12月28日、野手大根畑里集落で家屋57棟、八坂神社を含む寺社3棟が焼失する大火がありました。火災後、境内地は「津島様屋敷」といわれるようになったといえます。

現地を訪ねると「子安大神」と掲げられた鳥居と覆屋おおいやの右後方に、高さ50センチほどの石祠いしほこし（石の宮）があり、正面に「八坂神社」、左側面に「大正6年（1917）12月」と刻まれ、火災から25年後に建てられたことが分かります。

大火からおよそ130年、野手の祇園が語り継がれています。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問秘書課広報広聴班

☎73・0080



野手大根畑里にある八坂神社の石祠